

看護師募集



社会福祉法人 聖隸福祉事業団
医療保護施設
総合病院 聖隸三方原病院



SEIREI
MIKATAHARA

人を救う 自分を育てる 聖隸三方原

キリスト教精神に基づく“隣人愛”

病院理念

看護部理念

聖隸創始者の設立の理念である「隣人愛」を継承し、
助けを必要とする人に手をさしのべることを第一とする

- ・私達は自分のことのように人の命を大切にし、人格を尊重する
- ・私達は人が本来持っている生きる力を信じる
- ・私達は一人ひとりが専門職としての倫理と誇りをもち、謙虚な姿勢で最善を尽くす



SEIREI MIKATAHARA

1930年、数名の若きクリスチヤンは、当時不治の病と恐れられていた結核を患い行き場を失っていた青年に、体を休められる場所と医療・ケアという愛の手をさしのべました。これが‘隣人愛’聖隸の始まりです。この後、先輩諸氏は、常に‘最高のもの’を提供するために何をすべきかを考え、制度がない分野は先駆者として切り開き、そこでは看護師・助産師が常に患者・家族に寄り添いながら、高い専門性を発揮してきました。

聖隸三方原病院の職員は、理念の下に集まり、理念を具現化するために何をすべきかを個々が考え行動しています。これからも、「出来ない」ではなく、「どうしたら出来るのか?」を皆で考えながら進んでいきます。そして、地域住民の皆さま、院内外の医療・介護のケア提供者の皆さまから信頼される急性期病院の看護を提供できる、地域を含めた多職種協働が促進できる、尊厳が保持された誇りある人生を支えるために意思決定を支援できる、そのような看護をめざしていきます。



総看護部長
松下 君代

めざす
看護

看護を必要とする人の生命
をまるために、求められる医
療機能に応じた専門知識に
基づく看護を提供する。

看護を必要とする人の生きる
力を引き出すために、地域を
含めた多職種と円滑で効率
的な協働を促進する。

看護を必要とする人の尊
厳が保持された誇りある人
生を支えるために、意思決
定を支援する。

看護部の使命

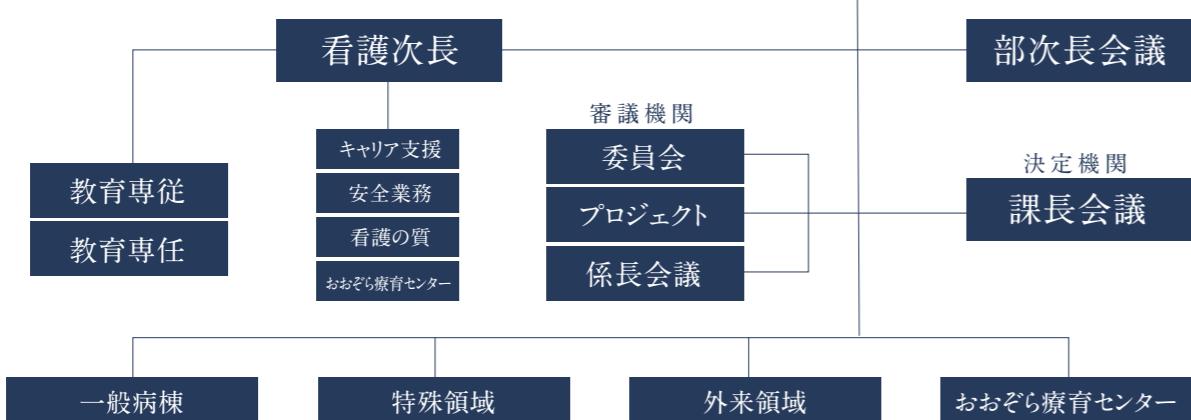
看護部の理念の基に集まった看護職員として、地域に根ざし、

地域から信頼される急性期病院の看護を提供します。

地域のニーズを解決するために何をするのか、個々が考え、チャレンジしていきます。

総看護部長

[看護部機構図]



看護部 ワークショップ

年1回100名を越える役職者と専門・認定看護師が集まり、1年間の実績報告と共に次年度の方向性を確認し、職場運営に活かすための2日間となっています。26職場それぞれの看護の強みを知る機会になっています。

看護部委員会

7つの委員会があり、部の運営を担っています。それぞれの委員会が情報共有を行い、連携を取りながら、看護部の目標達成や質改善に向けて活動をしています。

共に救う、 TEAM 三方原 聖隸三方原×看護部

聖隸三方原病院は高度救命救急センター・ドクターへリ・精神科救急医療・NICUなどをはじめとする急性期の治療を担う傍ら、結核病棟・ホスピス病棟・重症心身障害児病棟や摂食嚥下障害リハビリテーションなどにも幅広く対応しています。

また、24時間365日救急対応し、地域からの信頼も厚く、多くの患者さんが利用されています。

命の最前線において、最高のケア提供を日々挑戦。

01 | ドクターへリ・ 高度救命救急センター

年間の救急外来患者数約13,000人。救急車による搬入患者数約5,200人。ドクターへリ出動件数約300件など、強力な救命救急対応力を持っています。



C3病棟 坂下 亮

私たちC3病棟のこだわり、それは「医療従事者がチームとして一丸となり、命を守り、生きる力を最大限に引き延ばすこと」です。救命の連鎖を第一に考え、大切な人の命と日々向き合っています。

教育課程

フライトナースになるには

メンバーシップとして集中治療域から回復期における経験を積み重ね、知識や技術を研鑽します。その上でリーダーを担い、幅広い視野を身につけてもらいます。ここまでに5年前後の時間を要します。次いで初飛行において、迅速で正確な観察力と看護技術、そして臨機応変な対応力を身につけていきます。さらに巧みなコミュニケーションを駆使した強力なリーダーシップを発揮し、チームを牽引する力が求められます。特にフライトナースは、救急現場において短時間で他職種と協働しなければなりません。瞬時にチームとしての力を発揮せる力が不可欠となります。フライトナースになるには、10年前後の時間を要し看護師としてだけでなく、人間として大きく成長することが必要になります。

手術を受ける患者の心の「声」に耳を傾けます



02

手術室

年間手術件数は約7,500件、14室の手術室があります。新人看護師もベテランもママさんも働く職場です。各科の医師や臨床工学技士、放射線技師など多職種と共にチームで活動しています。



手術室 柏植 万里奈

私たち手術室のこだわり、それは「安全な手術を提供すること」です。

教育課程

手術室では器械出し看護師と外回り看護師がペアとなり手術患者の看護をしています。器械出しは術野の状況を把握し、使用する器械を予測して準備し渡します。外回り看護師は全身麻酔で意識のない患者の言葉にならない「声」を、血圧、心電図などの情報や、術野の様子などと共に、患者自身を見て総合的に読み取り、患者が安全に手術が出来るよう

最期の時間をその人らしく過ごせるように看護をしています



03

ホスピス



ホスピス 小池 由美

私たちホスピス病棟のこだわり、それは「その人しさを支えること」です。その人が大事にしているひと・もの・時間・ごころを知り、看護をしています。

ホスピス病棟では教育プログラムに沿って、3年間の教育支援を行っています。最初に緩和ケア認定看護師からホスピスケア・症状マネジメント・コミュニケーションのレクチャーを受けます。その後は段階的

に倫理調整・グリーフケア・スピリチュアルアセスメントとケアなどの講義を受け、ホスピスケアに必要な知識・態度・技術を学び深めています。

看護の専門性を発揮、利用者にとって必要な看護・医療を提供しています

04

聖隸おおぞら 療育センター

(重症心身障害児者施設)

「おおぞら」は利用者にとって、生涯を過ごす療養生活の場です。医療と介護の両方を担う看護師だからこそ、できる看護があります。



おおぞら2号館 豊田 真紀

私たちおおぞら療育センターのこだわり、それは「よりよい生活を提供すること」です。人と人が触れ合うぬくもりを利用者が感じられるような看護を追求します。

教育課程

看護部クリニカルラダーに加え、重症心身障害児者の看護を学びます。利用者さんひとりひとりの障害像を理解し、自ら訴えることができない

利用者の変化をフィジカルアセスメントと合わせ評価できるように、知識・技術の習得をていきます。

05

院内助産所「たんぽぽ」

産婦さんが本来持っている「産む力」と赤ちゃんが持っている「生まれる力」を手助けし、安心と共にご満足いただけるような「お産」を提供します。



06

腫瘍治療センター

がん化学療法・放射線療法や緩和ケアに関する専門知識を持ち合わせた職員を配置し、患者さんへのサービスに努めています。



07

精神科

精神科救急病棟があります。精神症状があり身体の治療が必要な方、精神症状の動きが大きな方の急性期の治療・看護を行っています。



自分のキャリアは自分でデザインする

自己の成長に合わせ、ジェネラリスト、スペシャリスト、マネジャーそれぞれの道を目指します。

そのために日々の看護実践の中でのOJT、看護部研修、院外研修の中で

看護実践力を習得し、看護専門職としてキャリアを重ねていきます。

自分の目指す看護師像を実現させましょう。

Clinicalladder クリニカルラダー

Clinical ladder level I
標準的な看護計画に基づき、自立して看護を実践する
基本的な看護手順に従い、必要に応じ助言を得て看護を実践する

Clinical ladder level II
ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する
幅広い視野で予測的判断を持ち、看護を実践する

Clinical ladder level III Clinical ladder level IV Clinical ladder level V

より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しLQOLを高めるための看護を実践する

Manager マネジャー

看護管理者は、職場や看護部の課題達成に取り組んでいます。

Generalist ジェネラリスト

看護実践能力を高めることで、その場に応じた知識・技術・態度をどの職場でも発揮できるような看護師となります。

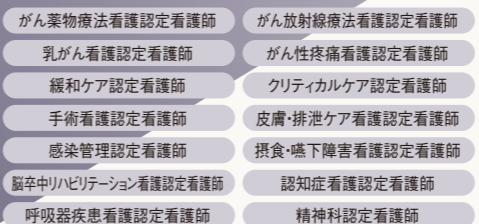
Specialist スペシャリスト

現在、約30名の認定看護師、専門看護師が院内外で活躍しています。

スペシャリスト[CN・CNS・CNA]への道

Certified Nurse

CN [認定看護師]



CN クリティカルケア認定看護師 大瀧 友紀



CN 感染管理認定看護師 鳴田 千絵子



CNS がん看護専門看護師 佐久間 由美

患者様やご家族とともに生と死に向き合う仕事なので、医療者としてというより人間同士の関わりを持つことが出来ます。また多職種の皆とチームで支えるやりがいのある仕事です。人と深く関わることが求められます。後輩の皆様には是非、コミュニケーション能力を磨いて人と関わることが好きになりこの仕事に就いて欲しいと思います。



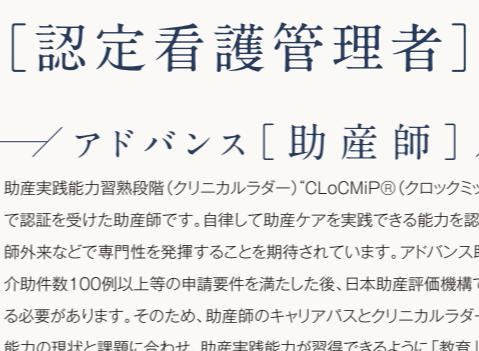
CNS 老人看護専門看護師 佐藤 晶子

認知症・せん妄ケアサポートチームの専任看護師として、認知症をもつ方が安心して入院生活を送れるようサポートしています。コミュニケーションの工夫や環境を整えることで認知症をもつ方が穏やかに過ごすことができ、ご本人やご家族、スタッフが笑顔になることがやりがいです。



Certified Nurse administrator

CNA [認定看護管理者]



認定看護管理者は、日本看護協会が行なう認定審査に合格することで取得できる資格です。患者・家族・地域の方々に対し、質の高い看護が提供できるよう、自身の管理する組織の課題を明らかにし、組織内の部署や人に働きかけて、組織全体のサービス提供体制の向上に取り組んでいます。



アドバンス [助産師]

助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー) "CLoCMiP®(クロックミップ)" レベルⅢ認証制度で認証を受けた助産師です。自律して助産ケアを実践できる能力を認証され、院内助産・助産師外来などで専門性を発揮することを期待されています。アドバンス助産師になるには、分娩介助件数100例以上等の申請要件を満たした後、日本助産評価機構でレベルⅢの認証を受け必要があります。そのため、助産師のキャリアパスとクリニカルラダーを活用し、個々の実践能力の現状と課題に合わせ、助産実践能力が習得できるように「教育」を行なっています。

アドバンス助産師 梅田 奈智加



チームで育む「看る力」 自ら考え 自ら学ぶ



チームナーシングによる 新人教育プログラム

新人看護師に対し、充分な指導体制を確保した
教育プログラムに基づく研修を行い、
看護師として必要な社会人及び専門職としての姿勢や態度、
ならびに基本的看護の知識・技術について安心で安全な看護ケアを
提供するための臨床実践能力を習得することを目的としています。



看護師の頼れるアイテム

「看護実践ガイド」

白衣のポケットに入る大きさで、毎年更新されます。看護職員すべてがこの実践ガイドを活用し、安全な看護実践を行っています。



印象に残っている看護の場面を書く・語る・聞くことで自分の行った看護を意味や価値に気づくためのスキルを身につける研修です。先輩と振り返り、同期と語る中で看護の魅力を自覚することができます。

看護での実体験を振り返り共有する



プリセプターシステムによる新人教育プログラム

当院のプリセプターシステムでは、プリセプティはチームの支援をうけながら、クリニカルラダーIを目指します。

プリセプターは主にプリセプティの精神的支援を行い、日々の看護実践はチームで支援しています。

現場の支援者(プリセプター: preceptor)

先輩

新人

新人(プリセプティ: preceptee)

お互いを信頼し、 共に成長していきます

B2病棟 武田 梨沙

私が新人の時、看護技術や患者さんとの関わり方など初めてのことばかりで悩むことも沢山ありました。プリセプターは一番身近な先輩で、困った時にはすぐに相談でき頼りになる、お手本のような存在でした。現在はプリセプターとなり、鈴木さんが困った時にはいつでも相談できるよう、私からも積極的に声を掛けるようにしています。また、看護技術や患者さんへの接し方だけでなく、身だしなみや言葉遣いなども意識して関わるようにしています。



一番身近な 頼りになる先輩です

B2病棟 鈴木 桃子

武田さんは自分がまだ獲得していない手技があると声を掛けてくださり、何ができるか聞いていたか細かく教えてくれます。また、「困っていることはない?大丈夫?」と定期的に声をかけてくださり、相談しやすい環境を作ってくれており、日々助けられています。私は、どんなに忙しくても患者さんには必ず優しく関わることを大切にしたいと考えています。当たり前のことはあると思いますが、忙しい中でもできる限り安心して生活を送れるようまずは患者さんの思いを傾聴できるよう心掛けています。

1日の流れ

9:00	リーダー・ペア看護師とショートカンファレンス (スケジュール確認など) 後、環境整備、検温、ケア、看護記録
8:30	OFF
11:00	ON
12:00	休憩
14:00	ON
17:00	OFF

業務開始/情報収集
11:00～13:00
リーダー看護師に午前の様子を報告後、交替で休憩へ

食事介助/配膳
16:00
リーダー看護師に申し送り、看護記録

当院の看護提供方式はチームナーシング(PNSと担当看護師の機能を一部追加)です。
その日のペア看護師と対等な立場で互いの特性を相互に補完し合いながら看護実践しています。



[勤務時間]

病棟の特性に合わせ3交代勤務の病棟と2交代勤務の病棟があります。

三交代

- ① 0時30分～9時00分
- ② 8時30分～17時00分
(職場により早出・遅出勤務あり)
- ③ 16時30分～1時00分

二交代

- ※一部の職場
- ① 8時30分～21時15分
- ② 20時30分～9時15分

聖隸三方原のクリニカルラダーに沿ったジェネラリスト育成

じっくり見守り、のびのび育つ。安心のOJT

入職からの流れ

新人研修プログラム

level I

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

集合研修

看護師教育プログラム

新入防災訓練

看護部導入研修
・静脈注入に関する研修①
・電子カルテ操作研修

・食事援助と創傷管理に関する研修

・看護過程と記録①
・静脈注射に関する研修②

・リフレクション研修①
・リフレクション研修②

・リフレクション研修③
・リフレクション研修④

・静脈注射に関する研修③
・(人工呼吸器の管理、シミュレーション研修)

・静脈注射に関する研修④
・シミュレーション研修

・リフレクション研修⑤
・リフレクション研修⑥

・がん看護研修

・(人工呼吸器の管理、シミュレーション研修)

・静脈注射に関する研修⑤
・シミュレーション研修

・リフレクション研修⑥
・リフレクション研修⑦

・静脈注射に関する研修⑥
・(人工呼吸器の管理、シミュレーション研修)

・静脈注射に関する研修⑦
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑧
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑨
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑩
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑪
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑫
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑬
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑭
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑮
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑯
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑰
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑱
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑲
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修⑳
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉑
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉒
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉓
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉔
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉕
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉖
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉗
・シミュレーション研修

・静脈注射に関する研修㉘
・シミュレーション研修



看護師の基本技術習得を目指し、BLS・静脈注射の技術を中心に関わる看護師が指導します。



安全な看護を実践するために必要な知識や技術を学び、マニュアルに沿って実施します。



五感を使って情報収集を行いアセスメントと報告につなげます。



さまざまなシミュレータを利用して、看護技術の習得を目指します。

クリニカルラダーI取得



職場に配属され、業務を徐々に覚えていきます。業務の流れや患者さんの情報を先輩看護師と共有します。



プリセプティ・プリセプタ会 同期達との情報交換や気持ちの共有を行います。看護技術や知識の確認も行います。



夜勤研修 ナイトシフト・ナイトセラピー会

職場OJT

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

ラダーIを取得した先輩看護師の声

フィジカルアセスメントの研修では、呼吸困難を感じている患者の事例でSBARを用いて報告することを勉強しました。研修で習うまでは数値にばかりに目が向がちであったということに気付くことができ、患者の全身を見ることが大切だと学びました。実際に、病棟で呼吸困難感を訴えている患者に対してフィジカルアセスメントを行い、リーダー看護師や医師に報告することができました。

当院は入職して早い時期に研修プログラムが組まれており、学べる機会が多い事が特徴だと思います。研修で時間をかけて看護技術や基礎知識を学ぶことができる所以現場ですぐに役立てることが出来ました。また、e-ラーニングも活用して自分のペースで繰り返し勉強できるのも役立ちました。学んだ知識や技術を患者さんに看護として提供できたときは嬉しかったです。

level II

チームの一員として実践的に医療に参加します。先輩のサポートを受ける機会が徐々に減り、主体的に考え行動する機会が増えます。

□ 看護過程と記録2

研修終了後に担当看護師となり、看護過程を展開します。

□ 高齢者とのコミュニケーション

相手を人として尊重する態度・コミュニケーションについて学び、実践します。

□ プリセプター研修

プリセプターシステムについて理解し、次年度のプリセプター役割を担うための準備をします。

level III

新人看護師のプリセプターとなり、OJTでサポートする側となります。知識も経験も積み、チームの中でも頼られる場面が増えていきます。

□ 看護部研修“看護研究”発表会

看護研究は日々、看護実践する中で思う「なぜ?」に焦点をあて、文献や理論を基に自分の看護を考察する機会となります。お互いの発表を聞き意見交換することで考察が深まり、今後の看護実践に繋がります。



□ フィジカルアセスメント(リーダー編)

職場でリーダー役割を担うために、フィジカルアセスメント力を高め実践します。



level IV・V~

地域からのニーズに応え、信頼される看護師へ

聖隸三方原病院の特定看護師

厚生労働省より「特定行為研修指定研修機関」に指定され、2020年より研修を開講しました。医師があらかじめ作成した「手順書」に基づき診療の補助が行える特定看護師を育成しています。これからの医療現場で求められる医療施設のキーパーソンとなる人材として期待されています。



チーム医療の
キーパーソン
知識と経験を活かす

B5病棟 高山祐輔

6区分の特定行為研修を修了し、これまでとは別の視点や角度からより深く患者さんを理解し、看護に反映することができるようになりました。医師をはじめ、多職種と協働し、連携するチーム医療のキーパーソンとして、手順書に基づいて患者に合わせてリアルタイムに対応や処置を実践しています。現在は病棟勤務をしながら特定行為を行い、自分の病棟だけでなく、他病棟の水分管理や創傷管理、外来などとも連携し横断的に活動しています。

災害支援の実績

復興の願いをこめて
被災地への看護師派遣

当院は災害拠点病院としてDMATチームを編成しており、2011年東日本大震災や2018年広島豪雨災害へ医師とともに災害支援活動を行ってきました。また近年では2021年静岡県熱海市での土砂災害へ看護師を派遣し、現場活動隊(消防、警察、自衛隊)の健康管理や被災者の心と体のケアを行ってきました。他にもDPATや災害派遣看護師の登録者も多く、今後も隣人愛の精神に基づき、被災された方々の支援を継続していく予定です。

2021年2月に静岡県から災害拠点精神科病院に指定されたこともあり、今後も被災地での活躍が期待されるDPAT(災害派遣精神医療チーム)



□ 専門・認定看護師による教育講座

専門・認定看護師が、その分野で必要な知識技術を集合教育しています。院内の看護職だけでなく地域の医療従事者誰もが参加できる講座となっています。現在は、摂食嚥下障害看護、褥瘡ケア、緩和ケアなど9講座を開講しています。

受け継ぎ、学ぶ 個の力

現場の看護師の体験談。先輩の力を学ぶ事を三方原では「技の伝承」と呼びます。

患者の習慣を知る 大切さ

B5病棟 松下 華



家族の思い、 ニーズをよむ

B5病棟 山本 尚子



在宅酸素を拒否する患者

既往に間質性肺炎があり肺癌の手術後に急性増悪を起こした方が、酸素が必要となり在宅酸素を導入することになりました。高齢であったため在宅酸素の手技獲得には時間がかかると考え、早期から指導を開始しようとしたが拒否がされました。私は、どのように指導を開始したら良いか先輩に相談し、患者さんが在宅酸素を受容できているか確認するのはどうかとアドバイスを受けました。その結果、説明を受けたい気持ちはあるが指導する時間を調整してほしいという希望があることが分かり、話を聞く中で入院前の大切にしていた習慣を知ることができました。

医療ニーズの高い

終末期の患者への看護

私が担当した患者は肺腺癌の終末期で、呼吸困難感が強かつたため症状緩和目的で医療麻薬が開始となり、酸素投与を行いながら症状コントロールをしていました。死を意識し悲嘆する患者に対してどのように接したら良いのかと後輩から相談されることが多くあり、私は患者の辛さや不安な気持ちに寄り添い、患者がどのような援助を求めているのかを考え想像しながら関わる姿勢を大切にするよう後輩に伝えました。

生活背景に合わせた看護

患者さんと事前に時間を決めることで、在宅酸素の指導を行うことができました。在宅酸素を導入することで呼吸困難感が軽減できる一方、酸素ボンベを使用して歩く自分の姿は容易に受け入れることはできないと思われます。そのため、患者さんがどのような思いを抱えているのか、これまで大切にしてきたことは何かを知りその人に合った方法で介入していくことが必要であると学びました。

地域との連携、患者家族との関わり

最期は家族に見守られながら自宅で過ごしたいという強い希望があったため、家族の協力体制や社会サービスを整え、患者家族が安心して在宅療養ができるような支援を行いました。退院後も継続して患者家族の意向を尊重したケアを提供できるように、地域の医療従事者・医師・理学療法士と共にカンファレンスを行いました。私は日々の業務の中で、患者だけでなく家族の思いや希望を確認しニーズを把握することや地域の医療従事者と情報共有することの大切さを後輩へ伝えるよう心がけています。

聖隸三方原のWork style

女性活躍推進、両立支援に取り組み、すべての職員が働きやすい職場を目指します。



選べるユニフォーム



看護職員全員に病院からユニフォームを貸与いたします。男性女性共に2種類のユニフォームを用意しています。カラーもご自由に選べます。気分に合わせて着こなすこともできますね。

より働きやすい環境を求めて

➡ 仕事とプライベートが明確な勤務シフト。

月	火	水	木	金	土	日
31	1 日勤	2 日勤	3 日勤	4 準夜	5 休日	6 日勤
7 日勤	8 日勤	9 休日	10 深夜	11 深夜	12 休日	13 休日
14 有休	15 日勤	16 日勤	17 休日	18 深夜	19 深夜	20 休日
21 日勤	22 日勤	23 準夜	24 休日	25 日勤	26 日勤	27 準夜
28 休日	29 休日	30 準夜	1	2	3	4

勤務シフトと休日

一部の職場を除き三交代制を採用しています。ここでのポイントは日勤・深夜の連続勤務がないことです。当院では日本看護協会の推奨する24時間につき最低連続11時間の休息をとることを遵守しています。

➡ オンオフも充実した勤務環境。

聖隸三方原病院は施設も充実。1階にはカフェ(TULLY'S COFFEE)と書店(谷島屋)、2階にはレストラン(C'DINER)があります。いざれも職員補助制度が利用できます。



TULLY'S COFFEE

ドリンクはもちろん、サンドイッチ・ケーキ・パスタも充実。ティーカウトもできます。



谷島屋書店

医学書から週刊誌まで幅広い品揃えとなっています。

男性職員も育休取得をし、積極的に子育てをしています

C3病棟 看護師 雨宮 純

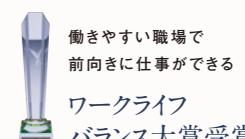
Q 育休を取得した理由・きっかけは?

私は小児科領域での業務経験もあり、育児に積極的に参加したいという想いがありました。また、生活の変化があるなかで家族揃って過ごす事で子どもとの愛着を深め、夫婦の絆も強くなると思い育児休暇を取得しました。職場で先輩方に育児について相談をしていく中で、男性職員でも育児休暇を取得される方が多い事を知りました。課長へ育児休暇についての相談をした際にも「どのくらい育児休暇りますか。みんな取って

前例があるから育休も取りやすい。

るから大丈夫」と返事をいただき、育児休暇を取得しやすい環境である事を実感しました。

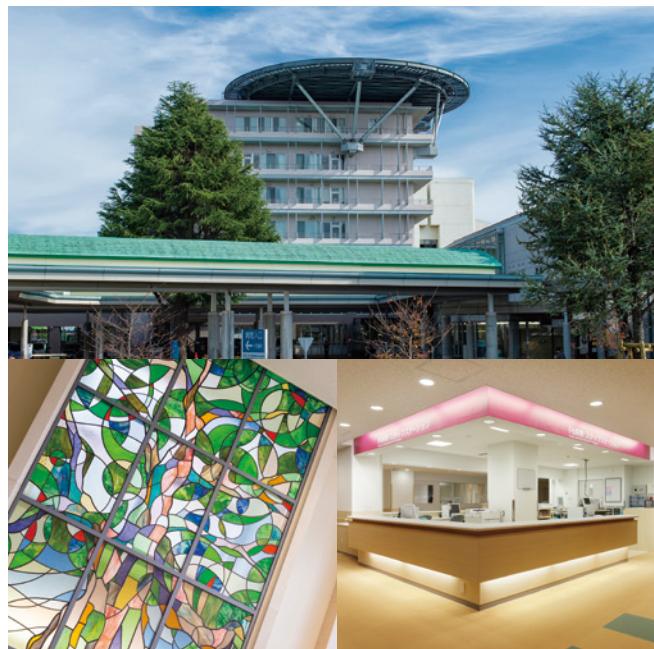
育児休暇を取得したことで、仕事を離れた家族と過ごす事ができ、新生児期の成長を肌で感じることができました。また交代で子どもをみることで、出産・育児で疲労のある妻が外出などで息抜きできる時間も作ることができました。



働きやすい職場で前向きに仕事ができる
ワークライフバランス大賞受賞。
看護業務の整理による超過勤務時間削減とキャリア継続の支援に対する取り組みが高く評価され、医療機関で初めて大賞を受賞。



SEIREI MIKATAHARA



A c c e s s /

●JR浜松駅よりバスで約50分

駅北口バスターミナルの15番のりば『40聖隸三方原病院 気賀 三ヶ日 方面』
聖隸三方原病院バス停下車

●JR浜松駅よりタクシーで約40分

●東名高速道路、浜松西インターチェンジより車で約15分



社会福祉法人 聖隸福祉事業団

医療保護施設

総合病院 聖隸三方原病院

〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町3453

TEL.053-439-9050 〈総務課人事担当〉

TEL.053-436-1251 〈代表〉 FAX 053-438-2971

✉ mkwebmaster@sis.seirei.or.jp

聖隸三方原

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/>

